

第30回区民車座集会意見交換内容（高津区）

- | | | | |
|--------|-------------------------|-----------------|-------|
| 1 開催日時 | 平成29年7月25日（火） | 午後3時から午後4時55分まで | |
| 2 場 所 | カタリストBA（二子玉川ライズ・オフィス8階） | | |
| 3 参加者等 | 参加者8名、傍聴者約13名 | | 合計21名 |

<開会>

司会：それでは、そろそろ定刻となりましたので、ただいまから第30回区民車座集会を始めさせていただきます。

私は、司会を担当させていただきます、高津区副区長の多田と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。

本日は、「高津区の魅力再発見！」をテーマにいたしまして、外側から改めて高津区を御覧いただきまして、その魅力、ポテンシャルについて意見交換をお願いしたいという趣旨から、車座の集会といたしましては初めて高津区を飛び出し、ここ二子玉川のカタリストBAをお借りして開催する運びとなりました。皆様方も、会場に入られてから対岸の高津区を御覧になっていただけたのかと思いますけれども、魅力再発見ということで進めさせていただきたいと存じます。

つきましては、まず、本日の参加者の皆様を御紹介したいと存じます。参加者の皆様方は、多摩川を中心としたエリアで活動する団体の方々でございます。お手元の次第にございまして、紹介をさせていただきますと存じます。

まず、大山街道アクションフォーラム運営委員会様。

遠藤様：遠藤です。よろしくお願いいたします。

司会：川崎河川漁業協同組合様。

竹仲様：竹仲と申します。よろしくお願いいたします。

司会：たちばな農のあるまちづくり推進会議様。

仲村様：仲村と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

司会：高津区商店街連合会様。

持田様：持田です。よろしくお願いいたします。

司会：高津ものまちづくり会様。

五十嵐様：五十嵐です。よろしくお願いいたします。

司会：NPO法人DT08（ディーティーエイト）様。

依田様：依田と申します。よろしくお願いいたします。

司会：二子玉川エリアマネジメンツ様。

佐藤様：二子玉川エリアマネジメンツの佐藤でございます。よろしくお願いします。

司会：二子玉川振興対策協議会様。

名川様：名川と申します。よろしくお願いします。

司会：本日は以上の皆様にお越しいただいております。

また、世田谷区からは、玉川総合支所街づくり課長の谷亀様にオブザーバーとして御出席をいただいているところでございます。

谷亀課長：世田谷区の玉川総合支所街づくり課長、谷亀でございます。よろしくお願いします。

司会：次に、行政の出席者を御紹介いたします。

福田紀彦川崎市長でございます。

市長：どうぞよろしくお願いいたします。

司会：高梨憲爾高津区長でございます。

区長：高梨でございます。よろしくお願いします。

司会：それでは、福田市長から御挨拶を申し上げますので、市長、よろしくお願いいたします。

<市長挨拶>

市長：改めまして、皆さん、こんにちは。区民車座集会、今回で30回目ということで、毎月やっておりますけども、今回、先ほど多田副区長からお話がありましてとおり、初めて当該区を飛び出してということで、世田谷区さんの方にお邪魔するということで、大変楽しみにして参りました。今日は、世田谷区側からお二人、2団体に参加していただくということで、とても有意義な意見交換の機会になるといいなというふうに思います。

世田谷区さんと包括連携協定を結ばせていただいてから、もう2年半ぐらいたつというふうに思いますけれども、これまで世田谷区と多摩川を挟んで隣り合っているにもかかわらず、何となくあんまり一緒にやってこなかった。でも、やっているところは実はやっていてと。消防団同士は行ったり来たりしているしとか、あるいは、今日お集まりの中で、皆様の中でも地道にその点はやってたよというところもあるし、そんな中でも、もっともっとお互い連携していったいいんじゃないかなというふうなことを最近すごく思います。

データ上、非常におもしろいものをどのぐらい世田谷の方が川崎の高津区に来ていて、逆にこの世田谷に高津区民がどのぐらい来ているかというふうなのをちょっと調べてみました。携帯電話を皆さんお持ちですよ。こういうものからどのぐらいこっちに来ているかというふうなのがデータ上、ビッグデータでわかるようになっているんですが、あんまり詳細を言うといけないという、何かいろんな制限があるんですけどもね、ざっくりした話を言います。そうすると、この時間帯、1時間前の平日の、7月の平日、14時、午後

2時の段階で、大体この世田谷区内に滞在している人というのは60万人ぐらいいました。その60万人の中で、世田谷区外から来ている人、これ一番多いの、川崎市高津区民です。約7,600人来てます。次に多いのが宮前区7,096人ということでありまして、実は、東京都内からこの世田谷に来られている方で、一番、当然多いのは世田谷区民なんですけども、それ以外のほかから来ているのは杉並区、これが6,800人。ですから、何と何と高津区が一番多い。都内で来ている人よりも高津区民が一番よく来ているということのデータがあります。これは平日の今の14時ということを言いましたけども、土日もそうです。逆に、高津区の方に誰が一番来ているのかといいますと、これも1位が世田谷区民の皆さんです。2位が大田区ということになります。そういうことですね、はい。そういうことでございます。というように、世田谷と高津区、非常に人の行き来がこのデータ上でも、何となく感覚的にはそうじゃないかなと思ってたと思うんですが、実際そういうことだということです。行政区域は、こういう、一応、東京都側とか神奈川県側ということで、川を挟んで分かれていますけれども、しかし、人の流れは全くその行政区域とは関係なく、みんな生活していますので、どうやってそれを生活圏に合わせてみんな楽しめるかというか、障壁がもしあるとすれば、それを取っ払っていくとか、もっと自由な発想でやっていくというふうなのがこれから大事なだろうなというふうに思っています。多摩川で隔てられている、こういう二つのまちではなくて、多摩川でつながる二つのまちというふうなことになる、見方を変えれば、もっともっといろんなものができるし、もっと魅力的なまちづくりになるんじゃないかなというふうに思っています。

今日は、8団体の皆さんに、それぞれがどんな取り組みをさせていただいているのかということ、私も勉強させていただきたいと思ひますし、今日はお互いの関係が見えてくる、あるいは傍聴席、あるいはインターネットを通じて、そんなことをやっているんだと、参加してみたいな、あるいは自分も機会があったらそういうイベントに行ってみたいなという、そういうふうないい区民車座集会になればいいなというふうに思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

司会：ありがとうございました。

<意見交換>

司会：それでは、早速進めてまいりたいと存じます。

本日の進め方でございますけれども、それぞれ発表者の皆様は5分程度でお願いしたいと存じます。その発表の後、市長から質問や意見交換を行うというような形で進めてまいりたいと存じますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

大変恐縮ではございますけれども、御発表時間、残り30秒になりましたら、このような、ちょっと御覧になっていただきたいのですが、表示をさせていただきたいと存じます。どうぞその旨を御了承くださいますようお願い申し上げます。

それでは早速、まず初めに、大山街道アクションフォーラム運営委員会委員長、遠藤昌宏様よりお願いいたします。

遠藤様：皆様、こんにちは。大山街道アクションフォーラム運営委員会委員長を仰せつかっています、遠藤と申します。

それでは、活動内容等を発表させていただきます。一番最初なんでちょっと緊張しておりますけれども、よろしくお願いいたします。

それでは、まず初めに、大山街道アクションフォーラムとは何かということで、大山街道アクションフォーラム運営委員会とは、大山街道周辺の活性化のため、地域住民や団体、行政が集い、それぞれでは不可能なことを実行に移していく、実現を目指していく場である大山街道アクションフォーラムの企画運営を行う

団体でございます。平成21年からスタートして、現在、9年目でございます。それで、現在の活動メンバー、約10名なんですけども、このメンバーの中には、私のような生まれ育ちもずっと大山街道でいる人間から主婦の方、ワンルームに住んでおられるサラリーマンの方等、いろいろな年齢の方、お立場の方に参加していただいている団体でございます。

アクションフォーラムの一つとして、いろいろな講演がございます。これは、一番近々に6月28日に行った講演なんですけれども、大島さんと言われるNHKの「プロフェッショナル」という番組にも出ていました、まちづくりのリノベーションのプロの方ですね、この方の御講演をお願いいたしました。リノベーションといいましても、家を新しくする、今風にするわけではなくて、まちづくりを兼ねたリノベーション、我々のやっている方向と同じような考えをしている方だなという勉強をさせていただきました。

次です。今日お越しになっています、二子玉川、大山街道、今、福田市長さんからもお話がありましたように、川を挟んで大山街道はつながっております。平成28年1月26日に、こちらの再開発を兼ねて、どうなっていったかということ、やっぱりこういうワーキンググループにおいて車座なんか、今回のような形でいろいろな意見交換をさせていただきました。

これは、旧東海道品川宿を歩いて見学に行ったところでございます。地域特性に応じた大山街道と、東海道ではございますけれども、同じ私鉄沿線に街道が沿ってしまっていて、やはり狭くて古い街道の中において、まちづくりをどう行っているかということ、地元の方の御案内のもとに、いろいろお互いに意見交換しながらやられていることを勉強しました。なかなか我々の10年ぐらい先を進んでいるんじゃないかなというような感じがしました。

それと、附属するイベントになります。大山街道、大きなイベントとしては、今度の日曜日にあります高津区民祭のほか、2月の日曜日にやってます大山街道フェスタというのがございます。この大山街道フェスタの中で、カレーフェスタということで地域の大山街道沿いのレストランの方にカレーをつくっていただいて、それでおいしさの順番を決めたり、今は余り営業していないんですけれども、料亭やよいさんをお借りしまして、1軒だけ残っている料亭やよいさんですね、ここでお座敷体験をしたりしています。

次ですね。景観形成のための太鼓幕設置。大山街道として統一した何かを、課題、そこで統一したものを見せていこうということで、このような太鼓幕を設置しております。基本的に、大山街道という、このロゴが入って、会社のロゴとか、団体さんのロゴ、そのお店の屋号とか、いろんなものを入れて、ここは大山街道ですよというところを示しております。

「1000匹のあゆプロジェクト」ですね。これはやっぱり主婦の方を中心として、白い何も色のついていない「あゆ」をつくって、それを区民祭等で来ていただいた方に色を塗っていただいて、つくっていただくと。それで、一応1,000匹、目標達成しまして、高津区役所の方に飾らせていただいたり、この写真は大山街道ふるさと館の中で、やっぱり芸術家の方に空間をうまく利用して展示させていただいて、またその下で新しく「あゆ」をつくっているという試みでございます。

あと、ミニコミ誌ということで、大山街道沿いの人に焦点を当ててミニコミ誌を発行しております。向かって左側の方は國學院の陸上部、箱根駅伝に出ていますけれども、その寮が大山街道沿いにありますので、その方に出させていただいて、右肩はやよいさんの方になります。

大体、以上このようなことをやりながら、いろんな世代間、地域づくりという形でコミュニケーションを図りながら大山街道フェスタを行っております。

最後の写真になりますけれども、これは今度の日曜日にあります、区民祭における全町連、町会のパレードにおける大山詣の一場面になります。

以上です。御清聴、ありがとうございました。

司会：遠藤様、ありがとうございました。

それでは、市長、お願いいたします。

市長：ありがとうございました。知ってるのもあれば、こんな取り組みをして、「１０００匹のあゆプロジェクト」ですか。私、これ初めて聞いて、何かすごいすてきなプロジェクトですね。ぜひ、それは高津区役所に飾ったんですか、最初には。

遠藤様：時期を決めまして一回飾らせていただいて、それでまた外して保管しまして、またイベント等があったときにいろんなところで飾れるようにしております。

市長：それはすごいすてきで、ぜひ多摩川のいろんなプロジェクトのときに、イベントのときとかにも、まだあるんですか。

遠藤様：はい、あります。でも、１，０００匹といっても、見てくれる的には、ちょっともっと多い方がいいということで、今後はちょっと増やそうかなとは思っておりますけれども。

市長：いや、何か、今、多摩川沿いにいろんなところで色輪っかプロジェクトというふうなのをやっているというのがあって、川崎の色で色の輪っかをつくって、河川敷でいろいろばっと広げているんですけども、そんなところに、ある意味では１，０００匹泳いでいたらすごいすてきなと今、感覚的に思ったんですけど、いろんなイベントと何かコラボしていただくと、もっと輪が広がってきて楽しそうだなというふうなのを感じさせていただきました。

それと、品川宿を歩いて、みんなで拝見したということでもありますけども、実は、この東海道の方は、これは皆さん御案内のとおり、東海道を歩くというのはもう全国的なブームなんですね。それは品川区、それから大田区、それから川崎市というふうな形ですごくつながって、こういうイベント、実はウオークイベントみたいなものやらせていただいて、それはそれぞれの行政区が一緒になってやろうと。それがつながって、最近は藤沢市もつながってきてというふうに、徐々にそういう東海道の自治体がつながってきているというのはすごいすてきで、実は、大山街道もこうやって研究していただいて、ああいう太鼓幕みたいなものをつくっていただいているのは、こういうのってもっと連携していくと、自治体間でですね、市民の皆さんと行政とみんなが一緒になってやると、すごいいい価値が生まれるんじゃないかなと思うんですよね。大山街道は本当にどこが起点かって、さっき話してたんですけど、赤坂御門なんですね。

遠藤様：そうです、はい。

市長：そこからずっと大山をつないでいくと、結構な自治体さんまで行けるかなと思うので、ぜひ、そういうのって行政起点だとあんまりおもしろくなくなる可能性があるんで、ぜひ市民の皆さんと一緒にやってやるというのが、やっていきたいなというものを思いますので、ぜひ御協力をよろしくお願いします。

遠藤様：はい。こちらこそよろしくお願いします。

市長：すばらしい活動を発表をさせていただいてありがとうございます。

遠藤様：こちらこそありがとうございます。

司会：ありがとうございました。

それでは、次に進ませていただきたいと存じます。

川崎河川漁業協同組合高津地区地区長、竹仲密昭様。

竹仲様：皆さん、こんにちは。川崎河川漁業協同組合の高津地区長を仰せつかっております、竹仲密昭と申します。よろしくお願いいたします。

プレゼンの時間が5分という短い時間ですので、うまく伝わるかどうかかわからないんですが、進めていきたいと思います。

まず、江戸の昔、多摩川はアユの産地として知られる清流でした。これは皆さん御存じだと思うんですね。しかし、昭和30年ごろになると、全国的に広がった公害汚染の中でも、特に多摩川が汚染された川になってしまいまして、そんな状況の中、多摩川を浄化し、もう一度、魚が泳げる川に戻そうと活動してきたのが川崎河川漁業協同組合と自負しております。その成果がようやく実り始めたのは平成に入ってから、放流したアユが多摩川で成長するようになり、さらに近年は、東京湾から上ってくる天然アユの姿も見られるようになりました。多いときには1,000万匹遡上した例もあります。アユ釣りの解禁は6月1日となっております。解禁前に東京側と川崎側と、現在、アユの成長を見守るための調査をしております。

高津地区で、これはやってないですね、川崎河川漁業協同組合は、東京都多摩川漁業協同組合とともに、昭和26年1月、内共12号として、多摩川原橋からガス橋までの多摩川本流として発足しました。川崎河川漁業協同組合には、多摩地区、これは四つの支部がありまして、登戸、菅、宿河原、中野島、そして、高津地区、私であります。中原地区の3地区で、現在の組合数は200名強であります。高津地区は60名の組合員で構成されており、その中には宮前区の方も入っておられまして、アユの漁獲量はほかの地区より多くとれているのではないかと自負しております。東京都杉並区や板橋区あたりからも遊漁権を買い求めて、その多摩川で釣りを楽しんでおられます。

高津地区では、取り組みとしまして、組合員が釣り上げた、そこで釣った魚、アユを塩焼き販売し、地域の皆さんに多摩川のアユの認知を広げていこうとしているところであります。これは中原地区でもやっているわけですが、アユの塩焼きは、3年前から公共施設のイベントで行っておりまして、先ほど申し上げました春の大山フェスタ、夏の高津区民祭、橋ふるさと祭り、そして、二子の渡しのイベントでもってアユの販売をいたしております。

そこで、高津地区での1年間の活動を紹介させていただきます。

まず初めに、例年2月11日、これ毎年決まっております、年の初めに、組合員の安全祈願と豊漁を願って水神祭を、その二子神社の本殿で開催いたしております。このとき総会も開催しております、この様子は今日取材に来られていると思いますが、タウンニュースでも紹介されております。

次に、春を告げる2月に高津区主催の、先ほど案内がありました大山街道フェスタが開催されまして、ここでアユの塩焼きの販売を行っております。

そして、3月、マルタウグイがですね、皆さん、マルタウグイって御存じでしょうかね。最近話題になっていますけれど、これの産卵のためにこちらへ遡上してきてまして、その産卵場の造成をするために我々組合員でもって努力を重ねております。写真にありますように、これがマルタウグイでありまして、年々数多く遡上するようになってきました。

それと、コイやフナの産卵場造成で、増殖事業の一環をやっております、これは増殖事業といって、漁業権行使するためにはこういうことをしなさいと、県の内水面の方から指導がありますので、やらなくては いけません。

時間がないので次に参ります。

4月には稚アユの放流、約1万匹を、その橋の上流の方に放流をいたしまして、大体約7センチぐらいで

27グラム前後のアユを放流します。

そして、5月になりますと、アユの試し釣り。これは限られた組合員が調査を兼ねて試し釣りをするわけですが、これの情報はタウンニュースで紹介されております。

それとアユ釣りの解禁が6月1日に始まりまして、写真のとおり、目の前に高層ビルが並んでいるところで釣り人がこうやって釣っているわけですね。釣果もこのように、結構釣れるような状態であります。

それから、今年の6月には、福田市長がお見えになりましたが、6月に川崎の清掃活動がございましたね。それを我々も毎年担いまして清掃活動を行っております。これですね、はい。これが終わりますと、6月の半ばに、新潟県の六日町、魚野川というところからウグイをこちらへ運んで放流する。これも内水面の指示でもって放流しなきゃいけないということで放流をいたしております。ウグイというのは清流でないと育たない魚種でありまして、多摩川がきれいになったことをあらわしております。

7月、8月は高津区民祭、それから、橘ふるさと祭りにアユの塩焼き販売。これは、そこでとれた多摩川のアユを販売いたしております。

そして、8月、これは本当は8月なんですけどね、国土交通省主催の多摩川夏休み教室、まさに、今日、あしたと、その下でやっておりまして、こういう一応イベントを進めて、私たち活動しております。

御清聴、ありがとうございました。時間がないので。

司会：竹仲様、ありがとうございました。

それでは、市長、お願いいたします。

市長：竹仲さん、ありがとうございました。すばらしい活動をしていただいて、まず、こうやって多摩川がもう一回きれいに復活して、アユが増えるというふうなところまでしていただいたのは、本当に市民の皆さん、竹仲さんのやっている組合の皆さんとか多くの人たちの努力があってからできているなというふうなことで、本当にお礼を申し上げたいと思います。

昭和26年から発足したということで、今も東京都の組合、漁協というのは。

竹仲様：ここだけです。

市長：一緒で。

竹仲様：はい。

市長：一緒というのは、東京都側にも同じような組合があるという理解でいいんですか。

竹仲様：多摩川漁業協同組合というのがありまして、活動は同じ、一緒です。

市長：一緒にやっている。

竹仲様：はい。

市長：そうですか。

竹仲様：ですから、なぜか東京都の多摩川河川より協同組合のアユの放流はないんです。しなくても漁業権

の行使はされている、東京都から。私たち神奈川県は、アユの放流をしないと、年々そういうのをしているんですけど、それをしないと漁業権は行使できませんよという約束事なんですね。

市長：でも、まあ一緒にやっていると。

竹仲様：はい。

市長：それはまたすごい話ですね。へえ、いや、そうですか。本当に、でも、昭和26年の漁業発足のときの目的と、昭和30年代、40年代の汚染されて大変な時期と、それからまた今、アユが帰ってくるといって、一世代で何か3区分ぐらいできますよね。おじいちゃんのころは泳いでた、きれいな川が、おやじのころは汚くて、今の子どもたちの時代になってきたらきれいというふうな形で、本当に組合の役割とか目的みたいなものは、だんだん時代の変遷とともに変わってきているんだなというふうなのを、何となくその一端を感じさせていただく。

竹仲様：それと、今日、国土交通省の夏休み教室は、多摩川漁協さんと川崎漁協と一緒に今活動しております。

市長：ああ、そうですか。いや、こういうのがうれしいですね。やっぱり国交省の京浜河川事務所の皆さんと両自治体、両域の自治体とかがみんなで市民活動の皆さんも一緒にやるというふうなのが、多摩川は本当に共通の財産でありますから、それをみんなでうまく協力しながら利活用していこうというふうな、これからもっとももっといろんな価値を、新しい価値を生み出せるんじゃないかなというふうに思います。ぜひ、アユは本当に、でも、僕はいまだに多摩川でアユっていう、びっくりされている方もいらっしゃるので、どうだという思いで、ぜひいろいろな皆さんに知っていただければと。

竹仲様：ひとつ、ぜひ食べてください。

市長：僕も何度も食べてますけど、おいしいですね。ですから、いろんな加工の仕方とか、昨日は映画のまちづくりの話で、各地で、全国で映画にまつわる食べ物というふうなのでまちおこしをやっているところがあるという話を聞いたんですが、ぜひ、多摩川のアユでいろんなメニューをつくってやるというのもおもしろいかもしれないですね。

竹仲様：たまにあります。

市長：ああ、もうやってる。

竹仲様：はい。それ民放で放送されました。

市長：ああ、そうですか。知らないことが多いですね。ありがとうございます。ぜひこれからも盛り上げていただければと思います。

竹仲様：ありがとうございました。

司会：ありがとうございました。

それでは、続きまして、たちばな農のあるまちづくり推進会議、仲村美津子様、よろしくお願いいたします。

仲村様：たちばな農のあるまちづくり推進会議というかたい名前の団体の仲村と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

行政の主導で始まった活動でしたが、もう8年目になります。8年間で推進会議メンバーも大分入れかわりまして、何人と数えることができないほど、登録メンバーは多いのですが、それぞれ仕事を抱えながらの活動なので、なかなか皆さんの調整が難しいというのが実態でございます。

推進方針ということで、私たちも高津区の魅力を再発見しながら、それをもっと区民の方に知っていただきたいということ。それから、私も40年前に夫の転勤で川崎に参りましたが、意外に幹線道路から1本、2本入ると、畑が多いのにびっくりいたします。できれば都市農業と言われているものを、私たちも何か一緒に守るお手伝いができないかということで、地産地消ということで、何かできるんじゃないかということで毎回いろんな話をしてまいりました。この美しい風景を、できれば次世代にも残したい、伝えたいということで、行動計画などを行っております。

主な取り組みといたしましては、ファーマーズマーケットといたしまして、農家さんの直売になります、偶数月の第三日曜に開催いたします、地産地消ということで「高津さんの市」と名づけました。これはまだ偶数月だけでございますので、年6回です。そのほかの奇数月というよりは、たくさん農作物ができるときには、どこか施設のイベントなどにお邪魔して、露出度をもっと上げて、いろんなことをやって、こんなことがありますよという宣伝ということで頑張っております。そのほかに縁農という方法で、農家さんの方と、本当は邪魔になっている可能性もあるんですが、交流ということで縁農ということもやっております。それから、やっぱり次世代に伝えたいということで、子どもたちを対象にいたしました農体験イベントを年に1回、春と秋に行っております。それから、写真撮影ツアーと写真展、これはやっぱり高津区の魅力を写真という方法で訪ね歩いて作品に残したいというような気持ちで、通年募集といたしましたが、秋に写真撮影ツアーを行う予定であります。

ファーマーズマーケットでは、定例の偶数月、第三日曜日の開催のほかに、区内の施設で「出張さんの市」というのをやっております。

縁農は、サポーター登録制をとっております、農家さんからヘルプが出ると、何月何日の何時にここ集合でサポーターさんどうですかとお声がけしております。

農体験イベント、このところ、春と秋の2回開催というのが定着してまいりました。これは子どもを対象にしております。親子で参加ということで、定員以上のお申し込みがあって、抽選になるほどの人気でございます。今年の春というより夏なんです、先週、第1回がありまして、8月に2回目、9月に3回目という、また、秋は10月に1回、12月に1回というふうに、これは種まきや収穫だけではなくて、農作業、畑の片づけですね、収穫後の畑の片づけや草取りみたいなことを、畑を維持するにはいろんな作業があるよねということを子どもにちょっとずつ伝えたいという目的でやっております。

写真撮影ツアー、今年度は12月25日にツアーをいたします。その後、その持ち込まれた作品を区内4カ所で写真展として開催をして、その写真の人気作品をカレンダーにつくって、皆様に景品というんでしょかね、商品でお渡ししております。

今後の展開についてですが、資料の中に直売所マップというのを同封させていただきました。これは高津地区と橘地区と二つバージョンを、今年度バージョンアップしてつくりました。そのほかに、農産物のレシピ集などを毎回の「さんの市」でお配りもしておりますが、そのまとめたものも、きつといつかちょっと冊子にしたいねというようなことがあります。

これまでも、もっともっとたくさんいろんな取り組みをやっていたんですが、さまざまな取り組みの中で、今はちょっと選りすぐって、この四つに集約しておりますが、もっとメンバーが増えたら、もっと魅力をたくさんの方に広げていけるようなことも考えております。「たちばなスタイル」というブログを更新しておりますので、興味がありましたら、ぜひお立ち寄りいただきたいと思います。

御清聴、ありがとうございました。

司会：仲村様、ありがとうございました。

それでは、市長、お願いいたします。

市長：どうもありがとうございました。この橘地区の農の豊かさというのは、知っている人はすごい知っているけど、知らない人は意外と知らないという、特に久末の地区は、川崎市では有数な都市農地のところで、本当にさまざまな野菜が作られているということを、高津区内で言えば、今、高津地区との交流というふうな形で、全区的に広めていただいているということで、これはすごく意味のあることで、意義のあることだというふうに思います。こういった活動を広めていただいていることに改めて感謝を申し上げたいと思います。

そうですね、特に「高津さんの市」、これはかなり有名に、知名度は上がっているというふうに私は理解しているんですけども、ぜひ今日は世田谷の方も来てますので、ぜひ世田谷区民の皆さんにも「高津さんの市」を御利用いただきたいなというふうに思いますね。すばらしい農作物、たくさんあるので、ぜひこういった機会に宣伝したいなと思います。川崎でもイベントアプリというものをつくったので、ぜひそこにも掲載いただいて、そうすると、高津区のみならず、市内の皆さんの、あるいは市外の方たちも、この「さんの市」のすばらしさというのを知っていただける機会になるかなというふうに思います。よろしく願いしたいと思います。

それと、カレンダーづくりまで、写真撮ってカレンダーまでつくってという、これもすごくすてきなというふうに思いました。やられていることで、これはぜひお願いしたいと思ったのは、地元飲食店で地場産野菜をもっと使ってねというふうなのは、これは意外と、僕たちもやってるんですけども、なかなかそこまでできてないなということがあります。やっぱり顔の見える関係で、いつも使っている、行っている飲食店に、こんなおいしい食材があるよとお客さんから言われるという方が、行政からどうですかねというふうなよりもはるかに効果はあると思いますし、何よりもやっぱりお客さんから言われるというのは、一番飲食店の近道なんじゃないかなというふうに思います。意外と使ってなかったりするんですよ、地元食材を。僕もこんなにおいしい野菜、フレッシュな野菜が地元にあるのにもったいないな。僕も結構言ってるんですけど、えって、「そんな食材、川崎にありましたっけ」と言われてショックを受けて帰るんですけど、でも、そこに実はこれだけ種類あるんですよ。この近くの農家だと、年間通じると80種類ぐらい野菜作ってますとか言うと、みんな飲食店の人たちびっくりすると。こういうのをぜひ飲食店の取り組みを、ぜひ仲村さん初め、メンバーの皆さんに、御協力、さらにしていただければ大変助かります。本当にありがとうございました。

そうですね、世田谷の皆さんもぜひ、高津、結構農地あるんですよ。多分、世田谷より農地はあると思いますので、どうか見に来ていただければと思います。ありがとうございました。

司会：ありがとうございました。

それでは、続きまして、高津区商店街連合会会長、持田知介様、お願いいたします。

持田様：パワーポイントはございません。商店街、持田でございます。

冒頭、福田市長の方から、二子玉、これだけの人数が高津区から来ているよというお話がございました。実は、ちょっと商店街とはずれるかもしれませんが、高津区民祭というものが今年44回を迎えるんですが、それに高島屋さんがずっとスポンサーをいただいています。なぜかと申しますと、当時、今から30年以上前ですね、高島屋さんが開店をして、非常に苦しい時代を過ごされた中で、高津・宮前からのお客様が6割から7割だったということで、私も高島屋さんをお願いをしまして、スポンサーになってほしいといった経緯がございます。商店街からいいますと、高島屋さんができて逆にお客さんがとられちゃうというような心配も確かにあったんですが、なかなかお客様自身が買うものを選んでいると。これは溝口で買うよ、地元の商店街で買うよ、これは高島屋へ行く、そういったような関係ができてございます。不思議なことに、高津地区の方は川崎・横浜方面って意外と買い物に行かないんですね。やはり渋谷、二子玉、こちらが中心。ちょっと足を延ばして日本橋というのが、もう大昔からの流れですけれども。高津区のここはなかなか昔とさほど変わらないんですが、高津区の分区、宮前区と分区されたときも高津区の人口はたしか23万人ぐらいと記憶しています。今日現在、高津区の人口はほぼ23万ということで、分区の前という形に非常に人口が増えております。東京のベッドタウンということで非常に住みやすいまちではないかなと思っています。

逆に、ちょっと苦言というか、申し上げたいんですけど、小杉の駅前は高いビルが多過ぎるんじゃないのという気がちょっとしております。ステータスで見れば、それは一つ魅力があることかもしれませんが、何か限られたエリアの中で多過ぎるんじゃないという気がしております。それによって周りの商店街の方に聞くと、ビル風が結構ひどいというようなことも聞いております。溝口のポレポレ通りもそんな高い建物はないんですけども、ビル風は結構ございます。あれだけ高い建物があると、ビル風の影響というものが結構あるのかなという気がしております。

高津区でも、商店街なんですけども、今現在、約ではございません、ぴったり10の単会で構成されております。20数年までは、橘地区を含めて16から17ですか、の単会が加盟をされておりました。御承知のように、人口が減少しているわけじゃないんですが、なかなか商店街というものは成り立ちにくくなっている時代ではないかなと思っています。

一番の問題は、やはり後継者の問題もあるんですが、非常に売り上げの低下、低迷というものがございます。今、私ども高津区商店街、加盟をしております商店街は、ちょうどこの川を渡りまして、すぐ二子新地駅前通り松栄会、それから、大山街道にございます二子大通り商和会、それから溝口大山街道振興会、高津一番街商店会、溝口中央商店会、溝口駅西口商店街、溝口駅前ストアー、梶が谷駅前通り振興会、かながわサイエンスパーク商店会、溝ノ口駅前商店街振興組合の10単会でございます。

いろいろイベントとしましては、区商連としてまとめるのには、非常に色の違うカラフルな単会が集まっているものですから、一緒に何かをやろうというところすごく難しいものがございます。今現在、各単会でいろいろ進めていただいておりますのが、高津区民祭におきましては、松栄会、商和会、大山街道振興会、この3単会の皆様が高津区民祭には協力をさせていただいてます。逆に、梶が谷の方に参りますと、梶が谷はエルカジ祭りということで、イベントというか、いろんな催し物をやっております。かながわサイエンスパークさんは、今週の金土に、サイエンスパークKSP祭りというものも行う予定でございます。それから、溝ノ口駅前商店街振興組合は、ポレポレ祭りということで、大道芸大会、フリーマーケット、それからイルミネーションという形で、年に数回のイベントを行っております。

私ども、当然、高津連合会としましては、川崎市商店街連合会に加盟をしております。市商連の開催をしますイベント、これにつきましては、近年では御記憶にあると思いますが、プレミアム商品券、それから川崎国際音楽祭、サンクスフェア1・2、それから、つい春は木下サーカス関連セールということで、市商連を主体に各区商連が協力をしまして開催をいたしました。なかなか、おやっと思いましたが、溝口で申しますと、大型店さんが一生懸命御協力をいただきまして、高津区からの応募の約65%がヨーカドーさんのお客様です。逆に申しますと、固定化になかなか力を入れにくいという部分もあったんですが、ヨーカドー

さんが御協力をいただいたおかげで、高津区は結構いい数字を残すことができました。

あとは、先ほど市長のお話の中で、大田区のお客が多いよと。溝口には田園調布さんのお客様が結構いらっしゃると思います。普通、田園調布に住んでるといって、溝口なんか来るのかというイメージがあるんですが、溝口へ来たら昔はこの三つを回って帰るなさいというようなお店もございました。なかなか、非常に田園調布に住んでいる方が溝口って、ちょっとイメージは確かに、もちろんないんですけども、私も商売をやっているときに、お客様の御住所をお尋ねすると、田園調布のどこどこですという方が確かにいらっしゃいましたので、まんざらうそでもないんだなというようなことを思っておりました。何というんですかね、溝口ってなかなか地味なというか、泥臭いというか、何かそんなイメージのするまちなんですけど、東京都民のベッドタウンということで考えれば、もう少し品ぞろえのグレードアップをしていってもいいのかなと。それぞれ個々の問題がございますので、なかなか私の口から、冗談ぽくは言うことはできるんですけども、真剣にやれよということだとけんかになっちゃいますので、なかなかそれは申し上げにくいんですけども、商店街が成り立っていくためには、やはりお客様に来ていただくなくちゃいけない。そのためのにぎわいを求めていかなきゃいけない。そういったことで、各単会、日々努力をしております。

こちらにおいでの方の皆さんも、溝口、高津区商店街をいろいろ御利用いただいていると思いますが、ますます、一日おきと言わず、毎日でも寄っていただければと思います。

あとは、今、川崎駅、2分半で終わると思ったんですけど、そんな話しちゃいました、すみません。客引きという問題が出ております。川崎駅東口はすごく苦勞されておまして、いろいろやっておられるようなんですけども、溝口は2番目です、被害としましては。それで、私は条例にかけてほしいという願いをしたんですが、溝口は2番目といわず、1番目と2番がこうじゃなくて、こうなんだよと、かなり低い2番だと。じゃあ、迷惑かけられないということだったんで、私は警察署長にお願いをしました。約二月で静かになりました。そういった方法があるということで、つい先日も川崎区の方にはそれをお話しさせていただきました。やり方はいろいろあるかなと。市民の方が安心・安全に商店街に来ていただいて、日々買い物をしていただけるというための努力を商店街では続けております。よろしく願いいたします。

司会：持田様、ありがとうございました。

では、市長、お願いいたします。

市長：ありがとうございました。商店街の皆さんには、本当に御自身の商売、プラスアルファのいろんな取り組みをしていただいて、まちを元気づけていただく、まちづくりそのものに参画していただいていることに本当に感謝したいと思います。ありがとうございます。

特に、今おっしゃっていただいたようなお祭り、イベント系というのは、これは商店街と一緒にやらないともう全く成り立たないということだというふうに思いますし、高津区、やっぱりそれぞれの地区によって特色がやっぱり違うので、高津区商店街連合会というよりも、各それぞれの単会のものを生かしてというふうな、それがやっぱり一番すばらしいなというふうに私も思っておりますし、その取り組みは本当にまちのそれぞれの魅力になっているなというふうに思います。

この前、私はちょっと出張で行けなかったんですが、7月7日、七夕の日の午後7時から水辺で乾杯ということで、川崎市内だと、あれ3か所だったですかね、やりまして、多摩川の周辺ということで、多摩川の河川のところでもやりましたけども、それを一緒に7月7日、午後7時、みんなで全国で一斉に乾杯しようというふうなので、特に水辺で乾杯というふうなことでやっていただいて、ありがとうございます。これを今後もやっぱりもっと増やしていきたいなと。それを近くの商店街で、1杯飲んだらそのまま商店街に行ってしっかり飲み食いしてくださいねと、それが大事です。1杯飲んで、そのまま家帰っちゃだめだと。そのまま商店街へというふうなところにつなげていけることが大事だと思いますので、ぜひ、それこそ橋地区の

方の商店街だとちょっと川は遠いなというのがあるかもしれませんが、近くの商店街の皆さんや駅の周辺の皆さんにはぜひ、これからもそういった新しいイベントも出てきますので、ぜひ御協力いただければというふうに思います。

それから、客引きの話もあって、また、違った方法で警察にも言っていただいて、ありがとうございます。引き続き、これはすごく大きな課題で、条例もつくったけども、まだまだ課題というのはたくさんあって、居酒屋系はまだしも、さらに風俗系のところが、川崎駅の方ですね、なかなかちょっと手こずっている部分もあったり、課題はいっぱいあります。これは手を緩めると、また復活してきますので、引き続き力強くやっていきたいと。これは警察との連携というのがもう一番重要な部分ですし、商店街の皆さんと、それから地域住民の人たちが、ここはやりにくいなというふうな雰囲気を出していくということが、やっぱり抑止につながっていくというふうに思いますから、ぜひみんなで協力し合ってやっていきたいなというふうに思っています。

ぜひ引き続き、いろんなことに商店街連合会の皆さんに御協力いただいておりますので、これからもよろしくお願ひしたいと思います。ありがとうございます。

司会：ありがとうございます。

それでは、続きまして、高津ものまちづくり会、五十嵐崇様、お願いいたします。

五十嵐様：皆さん、こんにちは。高津ものまちづくり会、会計をやらせていただけてます、五十嵐と申します。

今日は、本当に皆さん、すばらしい取り組みをされている中、なかなか多分、高津ものまちづくり会ととっても聞いたことがないというふうに思いますので、福田市長はじめ、我々はこんな取り組みをしていますということをちょっと御説明をさせていただきたいというふうに思っております。

高津ものまちづくり会というのは、高津区というのは非常に住工混在地区でありまして、住民の方々とのづくりをしている企業が一緒になって高津区全体を盛り上げようと活動している団体であります。

会としては、どんなメンバーがいるかという、一つは専修大学遠山ゼミですね。ここの学生さんの手伝いなくて、この高津ものまちづくり会の活動はできないだろうというぐらい重要なポイントです。川崎フロンターレさんも一緒にやろうということでメンバーに入っております。それから、下野毛工業協同組合さん、それから、僕が所属している川崎北工業会、この4団体で高津区、川崎市さんの協力を得ながら高津区を盛り上げようというのが高津ものまちづくり会であります。

実際、どんな活動をしているかというと、私、北工業会に所属をしているもので北工業会の活動をちょっと説明させていただきますと、まず、2月に「てくのまつり」といって、子どもたちにもものづくりの楽しさを教える、それから、川崎の中の企業はこんな企業がありますよということをみんなに知っていただくということで、具体的には、「ふろん太くん」が「カブレラ」を廃材でつくると。これは工場から出た廃材ですね。それで、画面に子どもたちが自由に置きながら、これ「カブレラ」でなくてもいいんですけど、何でもやっていただく。

それと、これは高津区の歴史を紙芝居にしまして、子どもたちにわかりやすく、高津区はもともと準工地区があって、我々企業がお金を出しながら道路を整備したり、道を通したりしたんですよということを紙芝居にして、子どもたちにわかりやすく伝えるというようなことを一つやっております。

次は、オープンファクトリーといいまして、企業を一般の方に見てもらおうというイベントですね。これは、実は全国いろいろなところで催されているんですけども、目的はいろいろでして、お祭りとしてやられているところもありますし、まちおこしとしてやられているところもあります。我々は、やはりこの住工混在地区における企業を一般の方に見てもらおうことで、隣に安心した企業があると、決して変な企業ではありません

んと。それから、こんなに大事な日本でものづくりをこの川崎、高津区で行っているということを実際に見ていただいてPRをさせていただいています。これは第4回目ですね。実際には、これ溝口レミコンさんという生コンつくっている会社ですけども、トラックに子どもたちを乗せたり、道路、車の修理工場で塗装体験をしたりと、こういうような実際にものづくりに携わって活動をしております。

次は、川崎ものづくりフェア、これも私、5年目、プロデュース、毎年イベントさせていただいていますけれども、フロンターレの試合の前にもものづくりのイベント、こちらの方も子どもたちにもものづくり体験と川崎の企業紹介と、それとフロンターレと我々はこれだけ一緒にいろんなことをやってるんですよというPRですね。今年は、樹脂の廃材を使ってということで、今年は「カブの日」って「カブレラ」の誕生日にやったものですから、「カブレラ」の廃材アートをつくって、高津区役所さんに1週間ほど展示をさせていただきました。これちょっと古い写真ですけど、こんな感じですね。フロンターレを思いながらということですね。

最後は、今年第8回になりますけれども、これ川崎北工業会納涼祭、夏祭りですね、こちらの方も地域の住民の方たちに、何か我々工業会としてPRすることはできないだろうかと、ボランティアとして楽しんでもいただけることはできないだろうかということで、宣伝部で考えまして、久地・宇奈根地区に梅林公園という公園があるんですけども、そちらの方で、今年8月25日開催をします。これは、毎年1,400人ぐらいの、こんな感じで、もう本当足の踏み場もないぐらい参加者が非常に多く来ていただいております。ですので、もし皆さんお時間があれば、ぜひ足を運んでいただければありがたいかなというふうに思っています。トラックを舞台にして、地元の保育園の太鼓の発表をしてもらったり、すくらむ21でいろいろ催し物がありましたというところを発表していただいたりということをやりながら、最終的には、このともに生きる、地域の住民の方たちと我々企業とともに生きると、そのためにはどうしていくかということを考えながら活動をさせていただいております。

御清聴、ありがとうございました。

司会：五十嵐様、ありがとうございました。

それでは、市長、お願いいたします。

市長：五十嵐さん、ありがとうございました。川崎は、何といっても、やっぱり製造業、ものづくりのまちで発展してきたところで、実は先週も中原区の中小企業でありましたけども、2軒ほど、本当に住工混在というものの、工業団地じゃなくて、本当に住宅地の中に1軒とかというところを、2か所ほど訪問させてもらいました。これは両方とも、これは偶然だったんですけども、昭和30年代、2社ともこれも偶然で、新潟から川崎に出てきて会社を興されて今に至る、3代目が今やっているというふうな会社だったんですが、昔はそんなに住宅はなかったんですよ。なんですけど、だんだんだんだんその住宅ができてきて、何となく操業しづらい環境になってくる。その中でもものすごい頑張っているというふうな姿を見せていただいて、本当に共生の取り組みをそれぞれの会社でもやっているし、特に今のものづくりの協議会のものづくり会の皆さんが、北工業会と、それから下野毛の皆さん中心なんですよ、が一緒にやっていただいている取り組みってすごく意義があって、特に一番すごいのが、やっぱりオープンファクトリーですよ。さっき五十嵐さんがおっしゃっていたように、この工場を何か音してるけど、何つくってるんだらうという、この何つくってるのかがわからないことに対する不安とか、あるいは何だろうなという、ちょっとうるさいというふうなことになっているのを、何か前向きにこう、どうやったら理解が進むかということに取り組んでいただいているというのは、本当にものづくり会のオープンファクトリーのやり方というふうなのが、いろんなところで展開されていっているというのが、本当にモデルケースで引っ張っていただいているなということで本当に感謝したいと思います。

聞いてて、ああこれもやってるんだと思ったのは、やっぱりフロンターレとか、それから地元の太鼓の皆さんとかって写真出てきましたけど、ものづくりとフロンターレを掛け合わせるとか、音楽を掛け合わせるとか、普通ちょっとなかなか思いつかないなと思うんですけど、こういった形で子どもたちに、製造業ってこんな大切なんだというふうに、教科書で教えるんじゃなくて、感じさせる。ハードル低くして体感させるとか、というふうな、この取り組みってちょっとすてき過ぎるというぐらいすばらしいなというふうに思わせていただきました。ぜひこんな形で異業種コラボというか、やっていただくと、今日集まっているメンバーともいろんなコラボレーションができそうなちょっと感覚がありますので、ぜひこれからも続けていただきたいなというふうに思います。本当にありがとうございました。

五十嵐様：ありがとうございます。今、市長が言われた、多分、中原区2社入ったところは、オープンファクトリー、実はこれ新潟、燕で工場の祭典というのを一番大きくやってるんですけど、そこに一緒に、去年も一緒に来た2社で、新潟で親戚だということがそこでわかって。

市長：そう言ってました。

五十嵐様：そうなんです。で、いろいろあったということが実はあって、そういうものづくりをネットワークにするといろんなことがもっとできますし、今日、市長がおっしゃったように、できれば商店街の方とか、いろいろコラボをさせていただく場になればいいかなというふうに思ってますので、これからもぜひよろしくをお願いします。

司会：ありがとうございました。

それでは、続きまして、NPO法人DT08理事、依田彩様、よろしくお願いいたします。

依田様：NPO法人DT08の依田と申します。今日は、アート×コミュニティスペース「にこぶら新地」を拠点に活動している私たちの活動を紹介したいと思います。

この「にこぶら新地」というのは、二子新地駅から高架下をずっと高津駅の方へ歩いて二、三分のところにあります。これは東急電鉄さんの協力を得てつくった案内板で、まるで駅の看板みたいなデザインになっています。

まず初めに、「にこぶら新地」の設立経緯を御紹介したいと思います。私たちが活動している「にこぶら新地」というのは、大井町線が二子玉川から溝の口に延伸されることによって、その高架下の利用をどうするかというのを東急電鉄さんが開催した住民たちとかとのワークショップをもとに、その中でコミュニティスペースを、施設をつくろうというものが平成18年にできました。その後、平成19年から21年の間で、ワークショップの参加者と、あと東急電鉄、あと高津区の方とずっといろいろ検討してきてできたものです。平成23年の東日本大震災の影響もあって、一時できるかどうかといった中断の時期があるんですが、平成25年に無事、設計と施工が始まりまして、27年ぐらいからオープンしてます。

NPO法人DT08の事業方針としましては、大きく三つありまして、アート×コミュニティスペースの運営、これが「にこぶら新地」が、いろんな部屋がありますので、その貸しスペースの運営ですね。あと、まちなかアート事業ということで、いろんなアートにまつわるイベントとかを開催したりしてます。あと、大事なもう一つ、地域・沿線まちづくりマネジメントということで、二子新地と、あと東急電鉄との関係が強い団体ですので、沿線の全体の連携みたいなのを行っています。

このDT08の関係しているのは、まず、東急電鉄から、あのスペースを東急電鉄につくっていただいて、使用協定というのを結んでます。あと、地元の町会等とは一緒に運営協議会というものをつくって運営して

ます。あとは、団体であったり、行政であったり、市民とかと利用していただいているということですね。

具体的にどんな部屋があるのかを御紹介したいと思います。資料にもあるんですが、ざっくり、入り口を入れて最初にあるのが、こちら有料で貸し出している部屋になりまして、一日を大きく三つに分けて、3時間ごとに3,000円ぐらいで貸し出しています。

まず入ってすぐに最初にあるのがコミュニケーションスペースで、事務スペースも兼ねて窓口します。この床のタイルとかも設計のときにみんなで相談して、色選びとかもやりました。

こちらが多目的スペースで、こちらと同じ部屋がもう半分、反対側にあって、パーティションで区切られています。36名程度の会議ができるようなスペースになってます。これが二つあるということです。

あと、ワークスペースというのは、アートとか工房とかが、もともと利用を想定してたので、床が割と丈夫なつくりになっていて、汚れたりしても大丈夫なしつらえになってます。

こういった部屋で実際どんなことを、どんなふうに使われているのかとか、あと、私たちがどんな活動するかというのをざっと紹介したいと思います。

先ほどおっしゃっていたアクションフォーラムの皆さんにもフォーラム会場として使っていただいたり、あと、建築とかランドスケープのグループの集まったセミナーを開催したり、あと、「にこぷら新地」を事務所がわりに使っているNPO法人NALC川崎さんの方々も定期総会みたいなのを行ったり、あと、社会福祉協議会によるクリスマス会ですね。あと、市内で活動されている、落語を開催されているNPO法人の方によって落語会をやったり、あと、フラメンコなんかも、これは2回、去年と今年やって、わざわざスペインからいらして、日本人の方なんですけど、やっていただいたりしています。こんなふうに多彩な人たちによっていろんな使われ方がなされています。

あと、事業方針の一つである沿線まちづくりということで、これ、つい十日ほど前にやったもので、佐藤さんもこれから御紹介されると思いますけども、参加していただいて、田園都市線沿線でいろんな活動をされている方々と活動内容を紹介していただいて、交流会みたいなのをやりました。

あとは、まちなかアートの推進ということで、地元のアーティストと、あと、子ども向けにワークショップをやったりなんかもしています。こんなふうなものをつくったり。

あと、先ほどちょっと話が出ていましたけど、色輪っかつなぎのスペースとして川崎市とも協働したりしています。

あと、ほかにもいろんな趣味で、編み物の方々が市場を開いたり、あとガレージセールといったものを開いたりもしています。

ふだんは定期利用として、お稽古事で毎日使ったりされている方がいて、お花のお稽古であったり、絵画教室であったり、あと書道教室だったり、いろいろとあります。

そして、この「にこぷら新地」の最大の魅力は、公共施設と違って飲食が可能ということで、ミニキッチンも小さいんですけどありまして、これは2014年にやった利き酒会ということで、一人みんな4合瓶を、好きなのを1本ずつ持って行って、ちょこっとずつ試飲ができて、簡単なおつまみをつまみながら、どれがおいしいか投票してやるみたいなイベントをやってみたり、あと、高津区にビール醸造社がありまして、そちらの方と共同して、あと、「〇〇ノクチ」という溝口の魅力を発信するという不動産会社の企画とコラボレーションして、「麦×ノクチ」ということで、ビールの試飲会をやったり、あと、地元でチーズに詳しい方がチーズ講座をやったりしています。

ちょっと最後飛ばします。あと、やっぱり食べ物食べたり、忘年会やったりして、最後は、うたげの後でこれぐらい飲んで、みんなで好きなもので結構飲んで、最後みんなでちゃんと、自分たちで掃除、ワックスがけまでするようにしています。

ありがとうございました。

司会：依田様、ありがとうございました。

それでは、市長、お願いいたします。

市長：ありがとうございました。すごいですね、個人的には飲み会、利き酒会に参加したいんですけど、思わず参加したくなるような、そういう取り組みを、何ととっても運営されているD T O 8さんたちも素晴らしいですけど、東急電鉄さんのこのきっかけがなければ、なかなかこれできなかったわけで、沿線のまちをどうやってアートだとか、そのライフスタイルを豊かにするかということに、電鉄さんが非常によく考えてくださって、市民の地域の皆さんと一緒にやっていこうという姿が物すごく、典型的ないい形になってるんじゃないかというふうなことをちょっと見させていただいて思いました。残念ながら不勉強で、私、現地に行ったことがないので、今度ぜひ行かせていただきたいと思います。

10日前にやったワークショップ、沿線の、それこそこちらの二子玉川の皆さんから、遠くはどこまでと言いましたっけね、結構。

依田様：たまプラーザぐらいですね。

市長：たまプラですか、ねえ。結構、10団体ぐらい来られたんですよ。

依田様：そうですね。何か田園都市線に今回限ったんですけど、ほかの沿線の方も東急線つながりで、混ぜてくれみたいな話が……。

市長：ええ。何か僕もすごい行きたかったんですけど、事前にそれを見せてもらったんです、パンフレットを。恐らく、そのまた結果、時間あったら今度教えていただきたいんですけど、多分、沿線というつながりだけで、各駅によってそれぞれの特色だとかというのがあって、それぞれもまちづくりみたいなのがあって、そういうふうなのが何か沿線でつながるってすごくすてきだし、多分参考になるんでしょうね。ぜひまた教えていただければと思います。

依田様：はい。

市長：すごいですね、本当に、ぜひいろんな多彩な、会議からフラメンコまでということで本当に驚きましたけど、ぜひこういう輪が、こんなのがあるんだ、ああいうのあるんだという、その主催しているイベントが地域の皆さんにもっともっと知られるといいなと思います。

依田様：さっき伝え忘れてしまったんですけど、大山街道アクションフォーラムとコラボレーションして、アユのモビールづくりというのをまた来月……。

市長：アユの、何ですか。

依田様：モビールという、アユのぬいぐるみを覆ったひもをたらし、左右均等になるようなモビールづくりというのを夏休みの子ども企画向けにやるので、その辺も共同してできたりみたいなのがあるのかなと。

市長：もうそういうコラボレーションは始まっているんですか。

依田様：ええ、来月の土曜日にやります。

市長：ありがとうございます。

司会：ありがとうございました。

それでは、二子玉川エリアマネジメント代表理事の佐藤正一様、よろしくお願いいたします。

佐藤様：それでは、二子玉川エリアマネジメントの活動を御紹介したいと思います。よろしくお願いいたします。

二子玉川エリアマネジメントですけれども、もともと、やっぱりこのまちは、二子玉川というところは、町名は二子玉川というところではなく、玉川という一丁目から四丁目がこの二子玉川と言われる場所のベースになるまち、町会でございます。この町会でもいろんな活動をされてきています。このまちはすごく町会活動を盛んにやられているところなんですけれども、その中でも、やっぱり町会が行うまちづくり事業というもののだけではなかなかこれから、今回の再開発、東側のライズが建ってからの活動において、町会だけのボランティア活動だけではなかなか行けないような事業とか、それから一方で、この東急電鉄さんが企業として地域貢献するための活動みたいなもの、これだけでもなかなかできないこととか、東神開発さん、後でお話もありますけれども、高島屋ショッピングセンターさんですね、玉川高島屋ショッピングセンターさんの方の、ここもやっぱりいろいろな地域との貢献、まちづくりをやられていますけれども、これだけではなかなかできない、この3者がそれぞれ重なり合いながら、それぞれでは簡単にはできないようなことを我々でやっていくということで、このエリアマネジメントという手法を使って取り組んでいこうということになっております。やっぱりこういう組織ですから、開発があった勢いのときに一瞬で終わるようなことをしちゃいけないだろうということで、つながって続いていく仕組みづくりをしていかなきゃいけないということでございます。

2015年4月10日にでき上がりました。まだまだ2年と数カ月しかたっておりません。ほとんど内容的には、まだまだこれからの団体ではございますが、ただ、全国のエリアマネジメントのいろんな団体がございまして、こういう地域で住民と企業がしっかり一緒になってやっている、かつそれに、先ほどの世田谷区の街づくりの谷亀課長いらっしゃるんですけど、こういうメンバーの皆さん、本当に行政の皆さんがアドバイザーとしてしっかりついていただいているというような、こういった座組みのエリマネは全国広しといえどもユニークだということで、全国からも非常に注目をしていただいている団体ではございます。

1年目、まず立ち上がったから我々は何をしたかといいますと、1年間は非常にみんなでいろんな議論をしていきました。まず、理事会を月に1回程度やりながら、それとは別にワークショップをやりまして、まちが捉えているいろんな課題を、外部の先生とかマネジメントの専門家の先生にお話を聞いたりもしながら、まち全体の課題をいろいろ出し合ってきました。何だかんだと五、六十の課題が挙がってきたんですけど、その中でも6個ぐらいに絞り込んで、やっぱりこういったことを優先的にやっていこうというふうに絞り込み、それを事業計画に一応形つくっていきまして、その中でも実際にできそうなことは何だということで二つほどに絞り込みました。一つは、やはりこの地域の自然河川、資産としての多摩川の河川敷、ここをどう活用していこうかということと、もう一つは、人がどんどん増えてきておりますので、このまちの歩行空間を、より安全な、安心な空間をどうつくっていけるかということ、こういったことに重点的に取り組もうと、この2016年立ち上がったから三、四年で取り組もうとしているものでございます。

その中でも、まず河川敷に関しては、やはり先にいろんな取り組みをしております。一つは、いろんな団体やいろんな活動が、この河川敷を使ってやっていこうとされています。そういったことを我々は支援したり、協力したりしていこうということをやっています。それから、この空間そのものをこういうふうによつ

ていけばいいなということを、我々としては提案し、演出していこうということで、キッチンカーの社会実験等もやらせていただいたりしております。そういったことを通じながら、我々は収益事業をしっかりつくっていきなさいいけないというのも一つのミッションとしております。その収益の一部を我々は公益還元していくという仕組みをつくっていくというのが、この団体の一つの特徴となります。そういう意味では、公益還元という意味では、河川敷のこの環境をどういうふうに環境整備をしていくかみたいなことの取り組みもさせていただいています。幾つかお話をします。この「花みず木フェスティバル」に関しては、後で名川会長の方からお話があると思いますので割愛させていただきます。

それ以外にも、6月、先日なんですけども、「国際ヨガDAY」というのが、おっと残り30秒になりましたね、はい。いろいろなことをやっているものですから、ちょっと話があれしますが、「国際ヨガDAY」の日に、河川敷で皆さんでヨガをやるということでやりました。それから、「TOKYO ART FLOW」ですとか、これは東急さんとかが中心になってやられたイベントですけども、こういったイベントや、楽天さんが協賛されてやった「リバーフェスタ」ですとか、それから、こちら東急さんが中心にやられていた「キネコ国際映画祭」、こういったいろんな企業様とか、この河川敷を利用していろんなイベントをやられているようなときにも、エリマネとしても支援・協力をさせていただいたりしております。

それから、水辺の空間、川崎はバーベキュースペースがございますけども、私どもこっち側ではキッチンカーを使った、そういった水辺の空間演出ということをやらせていただいたりしております。これを見ていただいたらわかりますように、やはり来られている方、この近隣、川崎市って書いてますが、さっき市長も言われたような、やはり高津区の皆さんとかが多く来ていただいているというふうに思います。非常にこれ、9割以上の方が、ぜひ続けてほしいという話もありましたので、これはいずれは常設でこういう空間をつけられるようにしていきたいなというために、今、社会実験をやっているところでございます。

公益還元と、こういうところで、本来は収益を上げてからやっていくものではございますが、まだまだ収益が上がる段階ではございませんけども、我々はこういう取り組みをしていこうということで、例えば野川というところの場所なんですけども、もともと場所、階段がこういうふうにあった場所なんですけども、こういった場所が泥がかぶっちゃってて川におりれなくなっていたというような状況のところを清掃したりもしまして、子どもたちとかがこの野川の方でいろんな河川敷の「ガサガサ体験」できるような体験の場をつくっていくようなことをやったり、それから、先ほどちょっとお話にありましたマルタウグイの産卵環境づくり、ちょっと川崎の、こちらの多摩川の上流の方ですね、あちらの方でNPOの水辺デザインネットワークさんとかと御協力しながら産卵環境づくりというのを多くの皆さんとやったりしております。

こういった活動を通じて、まちづくりに今取り組んでいるところでございます。

以上です。

司会：佐藤様、ありがとうございました。

それでは、市長、お願いいたします。

市長：ありがとうございました。さすがに、全国に誇るレベルからのお話かなというふうに、ちょっと見ただけでも思いましたけども、やっぱり一番、ああこれすごいと思うのは、やっぱり収益事業をしっかりやって、それを公益事業に展開していくというふうな、最初からそういうふうに設計しているということ自体が、恐らく持続可能な形なんだと思いますね。それは何か、これは大いに学ばせていただきたいなというふうに思いました。

先日というか、去年、いっぱい話題出てますけど、多摩川というものをどうやって生かしていくかなというので、新潟市の方に少し行ってきまして、信濃川の利活用というものを見てきたんです。そうしますと、えっ、そんなことってできるんですかといって、初めて僕知ったんですが、水面そのものを占有許可を取っ

ちやうというのを、国土交通省と、これはいろんな手続が必要らしいんですが、河川の水面そのものを占有許可を取って、そこでいろんな民間事業者の皆さんと協力して、いろんなイベント事をやっていこうという取り組みで、信濃川の中にバルーンを浮かして、その中で人が入って歩いたりとか、ああいう何かいろんな教室をやったりというのを、信濃川を使っているのを見て、これはぜひ多摩川でも、何といいますか、それが、川崎側が、東京側が、世田谷側がということじゃなくて、あのエリア全体としてこうやってプロデュースしていくということが、そのエリアに住む住民にとって一番楽しいし、あるいはエリア外の人たちにとってもすごくいいことだと思うんですね。そういう意味では、東急さんも非常にそういうことに、そもそもがそういう会社ですから、ね、そういう考え方に基づいてやっておられるので、これはもう市民の皆さんと行政と、それから鉄道事業者と、いろんな民間の方たちが交わることによって、新たな価値をつくり出せるなという可能性をいろんな形で実践されているので、ぜひこれからも協力関係をよろしくお願ひしたいというふうに思います。

佐藤様：ちょっとだけ。言われているように、本当に事務局にはもう東急の方たちも入っていただいたりして一緒にやっています。名川会長は町会の副会長ですけども、理事としてかかわっていただいたりもしています。

それともう一つ、11月3日に、「二子の渡し」というイベントを高津区さんの方でやられて、こちらの方に船を渡していただけたと思うんですけど、ちょうどその日に我々、野点（のだて）をやろうということを考えていまして、兵庫島公園のところで野点をやろうということになっています。ぜひ船で渡って、そのままぜひおいしいお茶をたてていただいて飲んでいただくみたいな、ぜひそういうつながり方を11月3日にやればなと思っています。ぜひよろしくお願いします。

市長：それすてきですね。これはやっぱりつながって、お互いにその情報がうまくできていけば、何というか、その時間帯、日時に合わせて一緒に両岸でやろうとか、今おっしゃったように渡ってきたら野点やっているとかって、こんなすてきなことはないですよ。ありがとうございます。

司会：ありがとうございました。

それでは、続きまして、二子玉川振興対策協議会会長、名川志信様、よろしくお願いいたします。

名川様：皆さん、こんにちは。御紹介いただきました、二子玉川振興対策協議会の会長を仰せつかっております、名川と申します。よろしくお願いいたします。

皆さんが、それぞれすばらしい発表で、というか私のような者でいいのかなとずっと考えながら聞いておりましたけれども、今日発表された方が、6人が高津の方で、2人が二子玉川ということで、本来であれば、私どもの方から川を越えてそちらに行かなきゃいけないところを、わざわざ玉川へお越しいただきまして、本当にありがとうございます。こういう場に参加させていただきまして、本当にありがたく思っております。ありがとうございました。

二子玉川振興対策協議会ということなんですが、これは、玉川高島屋さんが二子玉川に出店するころ、そのころが発端でございまして、このまちに、当時、高島屋さんができる前は本当に田舎町でございましたんで、そのまちに大型店舗が出店するということを契機に、地元の町会であるとか商店街が大型店舗と敵対するのではなくて、同じ方向を向いて、手を取り合って二子玉川全体の発展を一緒に考えていこうじゃないかという趣旨で、これは昭和40年に発足しております。ですので、52年の歴史があるわけでございますが、先ほどの佐藤さんはエリアマネジメンツ、初代代表理事でいらっしゃいまして、そういう意味でいいますと、私は、もしこれ最初からやってますと、私は5歳から会長をやっているということになってしまいますので、

そんなことはやってませんので、歴代いろんな方が、諸先輩方がいまして、現在、私が会長を仰せつかっていると、こういうことでございます。

今は、玉川高島屋さん、そして、東急電鉄さん、そして、ショッピングセンターを運営している東神開発さん、東急電鉄さんを始めいろんな企業の、地元の企業に参画していただきまして、全体で頑張っているというところでございます。

主な私どもの取り組みは、高津の方が大勢いらっしゃるので、もしかしたらお名前ぐらいは知っていたいているかなと思いますが、毎年4月29日に、多摩川河川敷を舞台に「二子玉川花みず木フェスティバル」というのを開催しております。おかげさまで、今年4月29日に35回目を開催することができました。これがその当日の模様なんですけど、今日、皆様のお手元にある資料に、これ5年ほど前につくった30周年の記念誌でございまして、これと、今年やりました35回のパンフレット、これがお手元にあるかと思いますが、それを参考にさせていただきたいと思います。

まず、この「花みず木フェスティバル」というのは、御存じの方は多いかと思いますが、ハナミズキという木は、実は日米親善の証といえますか、そういった歴史があるんですね。1912年に、当時の東京市長でありました尾崎市長がワシントンに桜の木を送ります。その3年後に、今度アメリカから40本のハナミズキという木の苗木が返礼として送られてくるわけですね。その一つが世田谷の深沢というところにあります園芸高校、そこにそのときの原木があるんですが、二子玉川の地は、早くからこのハナミズキを植えて、まち全体に相当数のハナミズキがあるということで、このまちのシンボルとするべきお祭りを「花みず木フェスティバル」というふうに名づけて現在に至ったという過程がございまして。

当日の模様でございまして、このように河川敷、兵庫島の先を使いまして、いろんなブースをつくっております。ここに、このパンフレットにございまして、感覚としては、本当にテーマとしては「太陽と緑と水のまち二子玉川」ということで、環境保全を大きなテーマに、そして、あとは地元地域の活性化ということとを大きな目的としてやっております。したがって、世田谷玉川を中心に、いろんな活動をしている方々に数多くブースに出ていただきまして、発表なり、販売なり、いろんなことをさせていただいております。

このテントが各ブースでございまして、こちら、これは当日、ハナミズキの苗木をチャリティーで皆様に買っていただきまして、チャリティー市というのをやっております。この収益に関しましては、世田谷区のボランティア協会あるいはトラスト協会、毎年寄附をさせていただいております。黄色いビブスをつけている子どもたちは地元の世田谷中学校の子どもたちです。このように地元の中学生、あとは世田谷総合高校の高校生、みんながボランティアとして参加していただいております。

これは、そのブースの奥にありますステージでございまして、この見開きのパンフレットの一番右に、タイムスケジュールでいろんな出し物が記載されておりますが、地元を中心に活動しているアーティストでありますとか、地元の小学校、中学校、高校のダンス部、コーラス部、そういったところのいろんな団体がここで発表します。今これはたまたま、今年初めて、高円寺から華純連（かすみれん）という阿波踊りの会を呼びまして、これがなかなか好評でございました。

こちらは、世田谷区オリンピック・パラリンピックのブースでございまして。世田谷区が、来る2020年オリンピック・パラリンピックに向けまして、アメリカ合衆国のホスト国ということになりまして、大蔵公園という運動公園がございまして、そちらにアメリカの選手の選手村及び練習場、そういったものがつくられるということになっております。それで、ハナミズキといえば日米親善ということから、この「花みず木フェスティバル」からアメリカを盛り上げていこうかなというふうに思っております。ホスト国に決まったのが一つ前の大統領のときでございまして、今、大統領がかわってちょっと事情が変わっているのかもしれませんが、でも、オリンピックはそういったことは関係ございませんということで、私どもはここからアメリカを盛り上げて、恐らく2020年にアメリカの選手たちがたくさん二子玉川に来てくれると思うんですね。そういったこともあって、今からPR活動をしているところでございます。

これは、兵庫島公園という、兵庫島はちょっと盛り上がった丘がありますが、そこに作りましたお茶会のブースでございます。これはさっきエリアマネジメンツの佐藤さんからお話がありましたが、これはエリアマネジメンツの御協力をいただきまして、初めて今年やったことなんですけども、「二子玉川 水辺茶会」ということで、このブースの中でいろんなスタイルのお茶会をしよう。俗に言う、かたいお茶会だけではなくて、若い人、子どもたちにも気軽に参加できるような、いろんなタイプのお茶会の場を提供して、これも今後続けていきたいというふうに思っております。

これは、先ほど御紹介した華純連という阿波踊りの会のあれでございますが、兵庫島の会場のみならず、当日は、二子玉川全体をにぎやかにしたいという思いがありまして、これは兵庫島公園から出張してもらって、地元の商店街を練り歩いていただいているところでございます。桜新町というところが青森のねぶた祭り、これ何回かやって非常に定着化しておりますので、二子玉川は、できればこの阿波踊りで対抗したいというふうに今のところ私一人なんですけど、考えているのは、でも、そのようにしていきたいというふうに思っております。

それで、私、今日皆さんの発表を聞いておりまして思ったんですが、こちらのパンフレットを見ていただいているように、「花みず木フェスティバル」の当日、いろんな方がお見えになりますが、例えば大山道つながりで伊勢原市の観光協会、そして、世田谷区の子どもたちが夏にいろんな学校をやっております川場村からもお客様が見えて、ブースをつくって物産展等をやっております。今日お話を聞いておりまして、例えば多摩川でやっておりますので、漁業組合さん、それと橘の農業の方、それとかものづくりの方、皆さん、私どもの花みず木フェスティバルとマッチできるものが多数あると思うんですね。なので、これを機会に、もしその機会がありましたら私どもの方へ申し出ていただいて、高津の方にもお越しいただきまして、やっていただければなというふうに今日強く感じました。

あと、毎年、高津区長さんに私どものフェスティバル、参加いただきましてありがとうございます。私どもも7月30日の高津区民祭、すごく楽しくて、熱いお祭りでございますが、今年も参加させていただきま。よろしくお願いします。

ありがとうございました。

司会：名川様、ありがとうございました。

それでは、市長、よろしくお願いいたします。

市長：名川会長、ありがとうございました。

名川様：どうもありがとうございました。

市長：花みず木フェスティバル、もう35回ですか。

名川様：そうですね、今年で35回です。

市長：すごいですね。いや、ぜひ一度お邪魔させていただきたいと思います。今おっしゃっていただいたように、大山街道フェスティバルのときには来ていただいて、あっ、高津区民祭ですね。

名川様：区民祭です。

市長：区民祭のときもそうですし、大山街道フェスティバルのときも、あれは区役所の方が、そうですね、

来ていただいたんですね。というように、お互いやっぱり交流していくってすごい大事で、世田谷区と包括協定結ばせていただいてから、多摩川花火大会もお互い副市長、副区長が会場にそれぞれ訪れたり、あるいは音楽ということで、高校生がそれぞれ、川崎の高校生は世田谷の方に、世田谷の高校生は川崎側にというふうに来ていただいて、舞台上やっていただいたり、そういう何か目に見える形で、顔が見えている形でどんどん交流していく、そういう機会を幾つもふやしていくことというのが、何というんでしょう、ただ行政同士で約束事を結びましたということじゃなくて、本当の意味でつながっていくってそういうことかなというふうに思います。今、名川会長、それから一緒にやりませんかというふうに呼びかけていただいたことというのは、やっぱりお互いにこうつながっていくということが、やっぱり大事なかなということを改めて思わせていただきました。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

司会：ありがとうございました。

それでは、引き続きまして、御参加者の皆様との意見交換会を進めさせていただきたいと存じますので、どうぞ市長、よろしくお願い申し上げます。

市長：ありがとうございます。今それぞれに、例えば五十嵐さんから竹仲さんへのアユのコラボというか、そういうのをどうですかとか、いろんなラブコールをお互いに少しあると思うんですけども、何かこういうふうなのをやれそうだなというふうな、あるいはつなぐれそうだなというふうなことを思った方って何かありますか。竹仲さん、どうですか。

竹仲様：多摩川河川漁業協同組合は、まだアユの塩焼き等々の体験が少ないんですよ。私たちの方は、もう三、四年前からそれを実行してますので、多摩川漁協さんと連絡会議が年に3回ございまして、連絡会議をやってるんですが、じゃあ、こちらで教えるから、世田谷の方にアユを食べていただけるようにしてくださいよというふうに今調整中ですので、それについてお手伝いができることがあれば、喜んでお手伝いさせていただきますので、どうかよろしくお願いいたします。

市長：ありがとうございます。

持田会長、商店街と何かつながるみたいなものというのは何かありますか。

持田様：なかなか難しいかなと思うんですけども、いろいろ試すことはできるのかなという気はします。ただ、商店街ってどっちかというと利益を求める集まりですから、その辺が兼ね合いとしてどうなのかなというちょっと心配はありますけどもね。ですから、商店街というのは人を呼ぶことは意外と得意としているものですから、その辺でもってお手伝いできればという気はいたします。

市長：はい、ありがとうございます。

せっかくですから、区長も隣に来てますので、いろんなイベントとかで世田谷区さんとも交流があったり、あるいは楽天さんがこちらに移ってきたことによって、従業員の皆様の住んでいるところが、多摩川を挟んで川崎高津に住んでいる方が多いという、自転車通勤をされている方も多いとかというふうな話も聞いていて、区長も世田谷区ともいろいろ交流を、意見交換させていただいています。何かコメントあったら。

区長：ちょっと急に振られてびっくりしています。今、いろいろと皆さん方お話しされて、多分、自分たちの活動の次の可能性というのが見えてくるんじゃないかと思うんですね。今回、高津の車座集会をこの世田谷区でやったのは、自分の今、普段活動しているところから少し離れて、客観的に自分たちの活動を見れる

んではないかなという、そういった思いもございます。特にここから見る高津区、窓越しに高津区を御覧いただくと、私、この景色、非常に好きなんです。何か高津区ってできるんじゃない、できそうだね、そんな気持ちが湧いてくるんですね。その思い、そういった気持ちをちょっと皆さん方に今日感じていただければというふうに思います。今、いろんな意見が出てきましたけども、やはりまちがにぎやかになる、まちが活性化するというのは、いろんな人が交わって、いろんな人が来て集って、そういったことがまちの活性化、まちづくりにつながっていくというふうに思います。これは高津区だけではなくて、世田谷区の方も、いろんな、そこに持っている歴史と文化を持ち寄って、それを高津区で、あるいはそれを世田谷区でやることによって、双方のまちがまた違った形で発展をしていく、それがまちの強みでもありますし、まちの発展の原動力だと思っています。皆様が今、非常にいろんな御意見をいただいて、非常にそれぞれの地域を愛していただいて、その証かなと思いますけれども、やはり私ども区役所としては、皆さん方のお力が一つ一つ積み重なって、それがひいてはきっとまちの発展、そして、区民の皆様の、世田谷区民の皆様のきっと幸せにつながっていくんだなというふうに思っています。ですから、今日、これ機会を得て、今いろんな御意見が、本当に思いつきが、今、思いつきかもしれませんけど、来年はそれが一つに、実践につながるようにしていければと思います。区役所、私ども高津区もそれがかなうように、皆さん方のサポートをしていきたいと思っています。来年は、ひとつまた世田谷と高津区とコラボの事業が生まれていくといいなというふうに思っています。きっと市長も応援してくれると思いますので、期待しておりますので、ぜひ皆さん方のお知恵というんですかね、何か企画を出していただければと思っています。期待しております。

市長：今日は、お互い高津区も東急沿線ということで、東急の開発の偉い方が来ておられます。東浦さんの顔が見えているので、せっかくですから何かちょっとコメントを、皆さんのいろんなお話出てますので、突然の振りで本当申しわけないんですけど、コメントいただいてよろしいですか。どうぞ前の方に。

東浦様：突然の振りで。皆さん、どうもこんにちは。東急電鉄の東浦と申します。

今日はカタリストBA、ここはカタリストBAと言うんですけど、ようこそお越しいただきました。これすごいですね、福田市長の川崎の高津区民の車座集会和、川を渡って世田谷区で行われているというのは大変画期的なことで驚いております。

先ほど、DT08の方からお話があった、10日前ぐらいのDT08でやった田園都市線を中心とした市民活動をやってらっしゃる方々の会にも私は出ていまして、それ幾つかに私もかかわってたりするんですけども、皆さんがこうやって横つながりしていく、また、それを行政が後ろから支援していくというのは大変いい活動だなというふうに思います。今日、どうしてこの会がここで開かれるのか私はあまりよくわかってないんですけども、平成26年、クリスマスイブの日、川崎市さんと世田谷区さんが、川を挟んだ自治体間の包括協定、連携協定を結ばれた。あれは、恐らく福田市長と保坂区長の居酒屋トークで決まった話ではないかと勝手に思ってるんですけども、いずれにしても、そこから、それまでも両自治体あるいは両市民の関係ってあったんだと思うんですけど、あそこから明確につながっていく、協力していこうという関係ができてきているんじゃないかなというふうに今日また感じた次第です。

一つだけちょっと残念なのは、車座集会という名前なんですね。このカタリストBAって見ていただくと円形のスタジオというのがあって、車座というのはみんな丸くなるんじゃないかなと思うんですね。福田市長はここじゃなくて真ん中にいるべきじゃないかなと、それは冗談ですけども。まあそんなことで、まずはお互い何をやっているのかを知る。多分、皆さん、お金もないとか、人もないとか、場所に、団体さんでいったら活動する拠点もないとか、ないないづくしで市民活動をやってらっしゃる方ってすごく多いと思うんですね。我々も全てサポートできるわけではないんですが、皆さんが持ち寄っている少しずつのリソースをお互い協力・連携し合うと、何か新しい力が生まれるんじゃないかなというふうに思っている次第で

す。

私ども東急電鉄も、たまたまこの二子玉川、あるいは田園都市線沿線もいろんなまちづくりにかかわらせていただいています。今日も後ろの方に、こんな活動をサポートさせていただいているメンバーも来ておりますけれども、お見知りおきいただいて、何でもかんでもというのは難しいんですけども、こんなことでできませんとか、ここを紹介してくださいとかというようなことがありましたら、どんどん我々も使っていたければと思います。よろしくお願いします。

市長：東浦さん、突然の振りなのがいいコメントをありがとうございました。かなり頼りにさせていただきます。

先ほど、佐藤さんからお話あったキーワードの中で、一つの団体ではできないことがつながっていくという、で、続けていくというキーワードが書いてあって、これはもうまさに今日のテーマそのものだなというふうに思ったんですね。やっぱり行政もそうですし、それぞれの団体の皆さんで、自分の専門性があって、得意分野があるんだけど、それがつながっていくことによって新しい価値を生み出したりって、一つではちょっときついなと思うことが、合わさるとこんなこともできるのかなという可能性を、それぞれの皆さんの事例の中でもやっていただいたと思います。先ほども言ったとおり、五十嵐さんのものづくりのところが、違う分野のサッカーのところにもつながっている、音楽とつながっているということと、子どもたちの教育にもつながっているという、幾つもの価値を生み出しているというふうに思うんですね。それから、アユのとか、野菜とつながろうとかというふうな形があったり、それが街道でつながってというふうな形になると、やっぱりそれぞれの大山街道は大山街道で歴史的にも意味があって、今も意味があると思うんですね。それをうまく生かさない手はないというふうに思うので、ぜひ、何かこういう場を通じて、これは一つのきっかけであって、いろんな楽しいことをやっている人たちがいるので、そういうのが意見交換して、ああいいう人をもっと紹介してくれないかな、自分たちにここが足りないから、さっきの東浦さんの話じゃないですけど、ここ足りないから誰か紹介してよというふうな話というふうなのが生まれてくると、高津区もそうですけれども、このエリア全体としても何か楽しさというふうなのが広がっていくんじゃないかなというふうに思います。何かエリア全体が楽しいと、そこに住んでいる人たちそのものの価値が、何というんですかね、いろんな意味で上がっていくというふうになると思います。

今日は、時間どのぐらい残ってるんですかね。何分まででしたっけ。まだちょっといけますか。もう何分が残っておりますけども、この際、少しちょっとコメントをしておきたいなというふうな方はいらっしゃいますでしょうか。

遠藤さん、いかがですか。街道で、最初に冒頭話していただいて、皆さん聞いていただいて、何か気づいた点とかというのがあれば。

遠藤様：目からうろこで、いろいろ勉強させていただいて、二子玉川エリアマネジメンツさんがやったことも、概算のことはよくわかって、地元の団体さんの細かい活動もよくわかっています。今回、車座集会において、その細かい活動がわかったので、今、市長が言われたように、持ち帰って、どんなことでコラボレーションできるかなという想像力が広がった点がすごくよかったですね。各団体さんは知ってるんですけども、細かく何をやられているかというのが、団体が違うとわからなくなってしまうので、それをどうやってうちのメンバーにも広げていくかということを今考えている最中でございます。ありがとうございます。

市長：ありがとうございます。遠藤さん、すばらしいコメントを言っていただきまして、実はこれは区民車座集会の一つの醍醐味でもあって、自分たち、顔は知ってたと、だけど具体的にどんなことをやってたかというのまでは詳しく知らなかったと、今、遠藤さんのおっしゃっていただいたようなことが新たな発見につな

がるというがあるので、そういう意味では、本当に意図していることをまさにコメントしていただいたなというふうに思っています。

農の関係でいかがでしょうか。

仲村様：はい、ありがとうございました。私たちもなかなか定期的な「さんの市」以外に露出度がないので、何かどこかイベントがあったり、あるいはここで売ってもいいよみたいなのがあれば、お試しでも結構なので、出かけていきたいという気持ちだけはたくさんありますので、ただただメンバーがちょっとみんなおとなし目な消極的なメンバーなのか、受け身的なことが多かったので、今日のお話を聞かせていただいて、いや、やっぱり売り込んでいかなきゃいけないなと、こちらが一步出なきゃいけないなとつくづく思いましたので、お声がけいただければどこでも参りますと言いたいところですが、相談しながらなので、まずはお声がけをとお願いしたいところです。ありがとうございました。

市長：ありがとうございました。仲村さん、でも、依田さんのところのDT08のところ、さっき利き酒みたいなイベントのところ、高津さんの地元野菜なんかを提供していただくと、何かそういうコラボってどうですか、依田さん。

依田様：時間がなくてちょっと飛ばしてしまったんですけど、さっきガレージセールのときとかも、それはJAの方なんですけど、地場野菜をやっぱガレージセールで売ったりとか、あと、利き酒会とか、何か企画でイベントをやるときは、なるべくその地元の、例えば飲食店で焼き鳥屋さんがあるから、そこから取り寄せるとか、なるべく高津、あの場でしかできないものを何か提供するみたいなのはいつもイメージしながら企画は練るようにしてますね。

市長：ありがとうございます。ぜひそんなコラボもやっていただいて、五十嵐さんのところでやっていただいている納涼祭とか、あるいはそういうところでも子どもたちに地場野菜とかね。

五十嵐様：そうですね。うちは、僕は今日納涼祭でアユの塩焼きだとか地場の野菜とかを販売できたら、実は一時期、震災があったときに、福島キノコを売ったりとか、いろんなことを、そういうこともしてたんですね。なので、せっかくなのでそういうコラボをもしさせていただければ、今年はもう日程決まってあれですけども、ありがたいかなというふうには思っています。よろしくお願いします。

市長：そうですね。ぜひよろしくお願いします。そして、お持ち帰りのいろんなものの買い物は高津商店街でという、持田会長、そういうことですね。準備もそうですし、また、二子玉川のところでということですね。ぜひ、さっき東浦さんから言われたんですけど、それこそ、世田谷の保坂区長は溝口にも出沒されておまして、二人で居酒屋、こんなことを言ったらネットで流れても大丈夫かなという感じですけど、二人で居酒屋で飲んでいるというふうなこともありまして、いろんなことで連携、こういう分野はできるんじゃないかなというふうなのを話してます。可能性のあることから、とりあえずやってみて、だめだったらまた次のことを考えようというぐらいの、トライ・アンド・エラーを繰り返してでも連携していろいろやっていこうよというふうな話を区長からもいただいて、ぜひそれはやっていきましょうということになっています。

冒頭申し上げたように、いろんなことで連携できる、地理的にもそうですし、2年前に宇奈根の渡しが復活したときに、恐らく今日は船に乗って迎えに来てもらって、世田谷側に連れて行ってもらおうというふうなことをやりました。そこに関係している方々が、みんな、実は世田谷区宇奈根、川崎市高津区宇奈根というふうな形で、昔から一緒のエリアとしてこう、親戚もそうだし、おみこしはこっちから出たとか、そんな

昔から古い歴史を共有している、そんな地域であって、これからもそういうことを踏まえて、その歴史というものを大切にして、これからもつながっていくという形にできれば、エリア全体がもっともっと、わいわいがやがや活性化してくるんじゃないかなというふうに思っています。単純に世田谷区の人口は増えているし、川崎市高津区も人口は増えている。人口が増えているだけじゃなくて、その中身というふうなものがもっともっとこれからも重視されていかなければならないというふうに思いますし、そのためには、今日お集まりの、まちを現場で盛り上げていただいている、活動していただいている皆さんと一緒に盛り上げていきたいなというふうに思っております。

今日は貴重な御意見をいただいて、私も大変勉強になりましたし、お互いが学び合って、これからの連携につながるような会になったのではないかなというふうに思っております。御協力いただいた皆さんに、全ての皆さんに感謝申し上げたいと思います。ありがとうございました。

司会：ありがとうございました。

それでは、以上をもちまして、この第30回区民車座集会を終了させていただきたいと存じます。

本日は、御参加いただきました皆様、本当にどうもありがとうございました。

では、お帰りの際にお忘れ物のないよう、また、御協力をお願いしたアンケートの方をどうぞお願いしたいと存じます。